

2005年3月8日

セクター：証券・商品先物取引業

## トレイダーズ証券株式会社(8704 ヘラクレス)

外国為替取引がメインであり、今後の顧客数増加次第では大きな成長余地

05.3 期は、第三四半期までの進捗状況を見ると、売上高では前期を上回るものの、利益ベースでは、前期に届かないように見える。足元の顧客口座数は順調に増加しているため、今後もある程度の売上・利益の増加は見込めると考えられるが、先行きを想定することは非常に困難である。

将来的な EPS は、安全サイドを見れば 04.3 期並みの 7,000 円だが、今後の成長を年 30% で 3 年分見込めば 2 倍以上となる。PER25 倍とすると、まずは 175,000 円程度が安全な株価水準であり、05.3 期の実績次第では、より高い水準が考えられる。

## 連結データ(左肩は対前年比(%))

決算期	03/3	04/3	04/9中	04/12 3Q
営業収益(百万円)	1,392	2,309	1,558	2,393
		65.9%		
純営業利益(百万円)	1,375	2,194	1,515	2,237
		59.5%		
経常利益(百万円)	-17	444	191	291
当期利益(百万円)	-31	235	85	107
総資産(百万円)	11,778	15,248	19,090	18,767
純資産(百万円)	2,067	2,303	2,387	2,409
株主資本比率(%)	17.6%	15.1%	12.5%	12.8%
ROA(%、経常利益 <sup>△</sup> -入)	-0.1%	2.9%	1.0%	1.6%
ROE(%、当期利益 <sup>△</sup> -入)	-1.5%	10.2%	3.6%	4.5%
発行済株式数(修正後、千株)	34	34	34	34
EPS(円/株)	-916	6,896	2,492	3,149
BPS(円/株)	60,674	67,576	70,045	70,709
配当(円/株)	--	--	--	--

## 事業概要～外国為替取引が主力

当社グループは、当社及び連結子会社2社で構成されている。当社は主にインターネット・コールセンターを通じて証券取引業及び外国為替取引業を行っている。連結子会社のうち、 트레이ダーズ投資顧問(株)は投資顧問業を行っており、トレーダーズフィナンシャルシステムズ(株)は、金融システム等の開発・販売・保守を行っている。

証券取引業で主に取り扱っている商品は、日経225先物取引及びオプション取引となっている。なお、国内証券取引所・香港証券取引所に上場されている有価証券については、当社はこれら市場への参加資格を有していないため、顧客からの注文は他証券会社に取り次いでいる。

顧客口座数と預かり資産の推移は下記の通り。(表1)年平均で40～50%程度の高い伸び率で口座数・預かり資産共に増加している。一方で、預かり資産を口座数で割った「一口座当たり平均預かり資産」を見た場合には、350万円程度で横ばいとなっている。一口座当たりの資産を増加させることよりも、口座数を増加させることが、今後の成長ドライバーとなると考えられる。

【表1 顧客口座数と預かり資産の推移】

	01.3	02.3	03.3	04.3	04.9 中
証券取引	223	833	1,637	2,589	3,014
	外為取引	668	1,367	1,979	2,686
顧客口座数計(件)	891	2,200	3,616	5,275	6,183
預かり資産計(百万円)	1,519	2,508	5,214	10,065	9,608
	外為取引	2,375	5,782	6,092	9,562
預かり資産計(百万円)	3,895	8,290	11,306	19,628	21,017

## 業績の概況～外国為替の利益率が高い一方、証券分野は足元業績悪化

05.3期も、第三四半期まで順調に推移している。足元の第三四半期決算をセグメント別に見た場合(表2)、外国為替取引は売上高も順調に増加している上に、利益率が年次を追って10%以上のペースで向上していることから、大きな利益増加となっている。一方で、証券取引については、04.3期は問題のない業績であったものの、足元では営業赤字に転落している。

今後の業績では、売上高については右肩上がり成長する可能性が高いかもしれないが、証券取引での足元の赤字が今後改善されるかが問題となる。

【表 2 セグメント別売上高営業利益率(百万円、%)、内部取引含まず】

		03.3 期	04.3 期	04.12 3Q
証券取引事業	A. 営業収益	537	949	696
	B. 営業利益	70	245	-12
	C=B/A	13.2%	25.8%	-0.2%
外為取引事業	A. 営業収益	812	1,214	1,500
	B. 営業利益	253	562	878
	C=B/A	31.2%	46.3%	58.5%
システム販売等	A. 営業収益	42	144	195
	B. 営業利益	39	39	-56
	C=B/A	94.9%	27.3%	-29.1%

#### 株式の状況～希薄化効果は特別に大きいものではない

当社の04年9月末時点での発行済み株式数は、28,375株で、未行使のストックオプション残高が700株ある。これに、今回上場にあたっての公募分5,000株を加えて、上場時点の発行済み株式数は、34,075株とした。ストックオプションによる希薄化効果は3%程度であり、比較的軽微である。

#### 情報開示の状況～他業種と比較すると開示水準は高いが、証券業種内ではやや劣るか

当社HPには、既に投資家向け情報開示のページが設置されている。内容的には、社長メッセージの他、プレスリリース・財務ハイライト等が掲載されているが、内容の充実度では、当社よりも先に上場するカブドットコム証券のほうが優れている。

#### 本資料における個別銘柄に関する注意事項

- ・ EPS・BPS・株主資本比率の計算の元となる、純資産・総資産・株主資本は、各決算期末時点の会社公表数値を用いている。発行済み株式数は、自己保有株を含まない。また、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。
- ・ 一株当りの配当は、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。

#### その他の重要な注意事項

本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営・財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料の著作権は当社に帰属し、その目的のいかんを問わず無断で本資料を複写・複製・配布することを禁じます。